

<b>リスクアセスメント報告書</b>	No.		部 長 検 印	受 付 印
	リスクアセスメント対象現場			
			印	印

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		対策後のリスク評価(予測)	改善に当たり考慮すべき事項	優先順位	
	作業名	災害に至るプロセス			可能性	重大性		リスクレベル	可能性	重大性			リスクレベル
		～するとき	～したので	～(事故の型)になる									

※ リスクの評価基準

災害の可能性

(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性(けがの大きさ)

(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
通院・休業1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル

(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
××	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×△、△×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×、×○、△△	中程度(受け入れ不可能)	3
○△、△○	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

リスクへの対応

(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)

<b>リスクアセスメント報告書</b>			No.	社	管理責任者
リスクアセスメント対象		実施年月日		作成者（安全推進室長）	
全社標準				印	

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		改善に当たり考慮すべき事項	優先順位	
	作業名	災害に至るプロセス			可能性	重大性		リスクレベル	可能性			重大性
		~するとき	~したので	~(事故の型)になる								

※ リスクの評価基準

災害の可能性

(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性(けがの大きさ)

(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
通院・休業1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル

(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
××	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×△、△×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×、×○、△△	中程度(受け入れ不可能)	3
○△、△○	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

リスクへの対応

(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)

<b>リスクアセスメント報告書</b>			No.	社	管理 責任 者
リスクアセスメント対象	実施年月日	作成者（安全推進室長）		長	
本社内勤他		印			

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り（現状）		リスク評価（現状）	リスク低減対策	対策後のリスク見積り（予測）		改善に当たり 考慮すべき事項	優先 順位	
	作業名	災害に至るプロセス			可能性	重大性		リスク レベル	可能性			重大性
		～するとき	～したので	～（事故の型）になる								

※ リスクの評価基準

災害の可能性	
（可能性ランク）	（記号）
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性（けがの大きさ）	
（重大性ランク）	（記号）
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
通院・休業1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル		
（リスクの見積もり）	（リスクの評価（判定））	（レベル）
××	極めて大きい（受け入れ不可能）	5
×△、△×	かなり大きい（受け入れ不可能）	4
○×、×○、△△	中程度（受け入れ不可能）	3
○△、△○	かなり小さい（許容可能）	2
○○	極めて小さい（受け入れ可能）	1

リスクへの対応	
（レベル）	（リスクへの対応）
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない（残留リスクあり）
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない（残留リスクあり）

※所属部長検印の後、安全推進室へ提出

<b>リスクアセスメント報告書</b>				No.	部長 検印
リスクアセスメント対象現場		実施年月日		現場代理人	実施者
				印	印

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策		対策後のリスク見積り(予測)		改善に当たり考慮すべき事項	優先順位
	作業名	災害に至るプロセス		可能性	重大性	リスクレベル	可能性	重大性	可能性	重大性		
		～するとき	～したので	～(事故の型)になる								

事故・災害の型(例)

番号	災害の種類	事例・解説
1	墜落・転落	人が樹木、建築物、足場、機械、乗り物、梯子、階段、積荷、斜面等から落ちること等をいう。
2	転倒	人がほぼ同一平面上で転ぶ場合をいい、つまずき又は滑りにより倒れた場合等をいう。
3	激突	墜落、転落及び転倒を除き、人が主体となって静止物又は動いている物に当たった場合をいい、吊り荷、機械の部分等に人からぶつかった場合、飛び降りた場合等をいう。
4	飛来・落下	飛んでくる物、落ちてくる物等が主体となって人に当たった場合をいう。
5	崩壊・倒壊	堆積した物(はい等を含む)、足場、建築物等が崩れ落ち又は倒壊して人に当たった場合をいう。
6	激突され	飛来・落下、崩壊、倒壊を除き、物が主体となって人に当たった場合をいう。
7	はさまれ・巻き込まれ	物にはさまれる状態及び巻き込まれる状態であつた場合、おぼれる等をいう。
8	切りこすれ	こすられる場合、こすられる状態で切られた場合等をいう。
9	踏み抜き	くぎ、金属片等を踏み抜いた場合をいう。
10	おぼれ	水中に墜落しておぼれた場合をいう。
11	高温・低温の接触	高温又は低温の物との接触をいう。
12	有害要因との接触	放射線による被曝、有害光線による障害、CO中毒、酸素欠乏症並びに高気圧、低気圧等有害環境下に暴露された場合を含む。
13	感電	帯電体に触れ、又は放電により人が衝撃を受けた場合をいう。
14	爆発	圧力の急激な発生又は開放の結果として、爆音を伴う膨張等が起こる場合をいう。
15	破裂	容器、又は装置が物理的な圧力によって破裂した場合をいう。
16	火災	
17	交通事故(道路)	道路交通法適用の場合をいう。
18	交通事故(その他)	船舶、航空機、及び公共輸送用の列車等による事故をいう。
19	動作の反動・無理な動作	上記に分類されない場合であつて、重い物を持ち上げて腰をぎっくりさせたというように身体の動き、不自然な姿勢、動作の反動などが起因して、筋ちがえる、くじく、ぎっくり腰及びこれに類似した状態になる場合をいう。
20	その他	分類する判断資料に欠け、分類困難な場合をいう。

可能性評価基準の判断別視点(参考)

災害の可能性ランク	記号	現状・状態
かなり起こる	×	●安全対策がない。表示や標識に不備が多い。 ●安全ルールや作業標準すらない状態。 ●防護柵や防護カバー、その他安全装置がない。 たとえあつたとしても相当不備がある。
たまに起こる	△	●防護柵や防護カバー、その他安全装置等は設置されているが、柵が低い・隙間が大きい等の不備がある。 ●安全ルールや作業標準等はあるが、守りにくいところがある。うっかりしていると災害につながる可能性がある。
殆ど起こらない	○	●防護柵や防護カバー等で困われ、かつ安全装置が設置され、危険領域への立入が困難な状態。 ●安全対策は整備されており、特に注意しなくても災害につながることはほとんどない。

リスク低減対策の採用順位

順位	リスク低減対策措置の方法
①	作業の廃止・変更、より危険性又は有害性の低い材料・機械装置への変更など、本質安全化を採用する。
②	防護柵や防護カバー、光線式安全装置、局所排気装置などの安全防護対策を採用する。
③	マニュアルの整備、立入禁止措置、警報の運用、複数人作業の採用、教育訓練などの管理的対策を採用する。
④	安全帯・マスク・メガネ等の個人用保護具を使用する。但し、この措置を①～③の措置に代えてはいけぬ。
番外	作業員個人が「注意する」「確認する」等の個人判断に任せるような措置は対策として認められない。

※ リスクの評価基準

災害の可能性

(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性(けがの大きさ)

(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
通院・休業1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル

(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
×	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×	中程度(受け入れ不可能)	3
○△	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

リスクへの対応

(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)

<b>リスクアセスメント報告書</b>				No. 浦②—1 → (現場毎の通し番号)				部長 検印	受 付 印
リスクアセスメント対象現場		実施年月日		現場代理人		実施者			
浦川復旧治山工事②		平成18年 8月 2日		現場代理人氏名 印		実施者氏名 印			

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		対策後のリスク評価(予測)	改善に当たり考慮すべき事項	優先順位
	作業名	災害に至るプロセス		可能性	重大性	リスクレベル		可能性	重大性	リスクレベル		
		～するとき	～したので									
1	2階水平(つり棚)足場組立て	手摺り部材の小運搬中に	バランスを崩し	墜落し、1階床に激突する	×	×	5	運搬量を過大にしない	△	○	2	2
							安全ネット(防網)を設置する					1
2	土地整理進入路築造	バックホウが斜路を走行中に	オペレーターが目測を誤り	法肩から転落しオペレーターがバックホウの下敷きとなる	○	×	3	誘導者を配置し、適正に誘導する	○	○	1	1
リスクレベルが3～5の場合に、リスク低減対策を実施。 リスク低減対策の後、1～2の評価となる。												
☆ 本、報告書は着手前・作業方法等を新規に採用、又は変更するとき等、工事内容の変化に応じて提出する。												

※ リスクの評価基準

災害の可能性	
(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性(けがの大きさ)	
(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
休業通院1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル		
(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
×	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×△、△×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×、×○、△△	中程度(受け入れ不可能)	3
○△、△○	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

リスクへの対応	
(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)